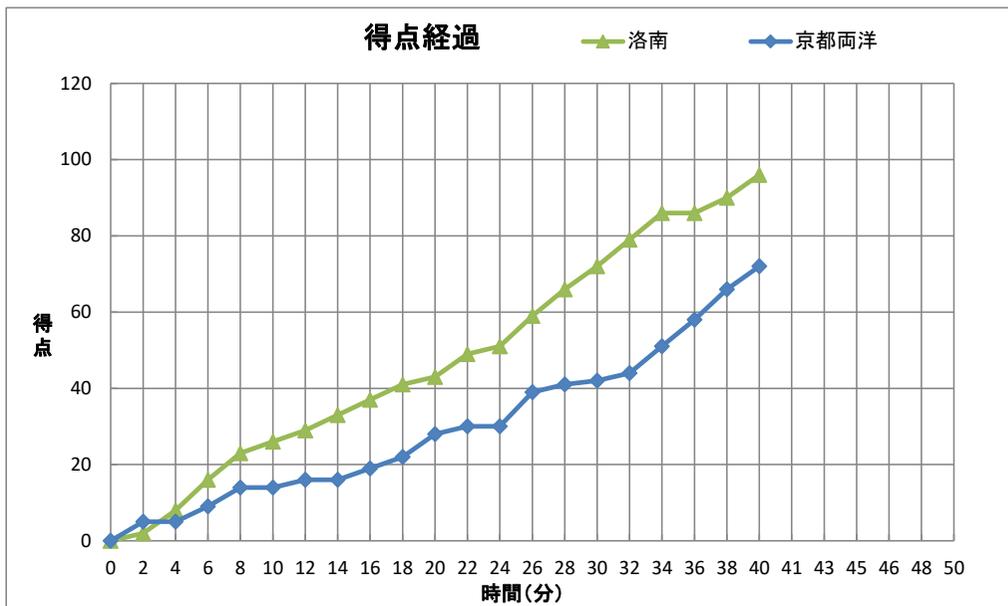




第41回京都府高等学校選手権大会 兼  
第74回全国高等学校バスケットボール選手権大会京都府予選

個人トータル表

男子		10月24日		13:00 開始													
決勝リーグ		舞鶴文化公園体育館		A													
◎ 洛南	96	<table border="1"> <tr><td>26</td><td>1st</td><td>14</td></tr> <tr><td>17</td><td>2nd</td><td>14</td></tr> <tr><td>29</td><td>3rd</td><td>14</td></tr> <tr><td>24</td><td>4th</td><td>30</td></tr> </table>	26	1st	14	17	2nd	14	29	3rd	14	24	4th	30	72	京都両洋	
26	1st	14															
17	2nd	14															
29	3rd	14															
24	4th	30															
番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則	番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則				
* 4	岩屋 頼	8	0	3	2	0	4	藤井 惇平	0	0	0	0	1				
* 5	大西 一輝	10	1	3	1	2	* 5	田村 留樹哉	3	1	0	0	2				
* 6	山岸 優介	5	1	1	0	2	6	仲野 政真	0	0	0	0	0				
* 7	簀田 恵大	8	0	4	0	3	* 7	森川 綾哉	32	5	6	5	3				
8	杉信 イフエアニ	6	0	1	4	1	8	齋藤 連人	0	0	0	0	1				
9	高田 和幸	2	0	1	0	0	9	山岡 青登	2	0	0	2	0				
* 10	星川 開聖	19	0	7	5	2	10	高橋 慈央	0	0	0	0	0				
11	西村 渉	17	0	7	3	2	* 11	森 弥月	21	0	8	5	4				
12	三浦 健一	5	1	1	0	3	* 12	所 龍之介	9	3	0	0	1				
13	波多野 心優	8	0	4	0	1	13	福井 鉄士	0	0	0	0	0				
14	辻 永遠	0	0	0	0	0	14	小川 凌来	0	0	0	0	1				
15	後藤 亘貴	0	0	0	0	0	15	中野 京葵	0	0	0	0	0				
16	高市 遥平	2	0	1	0	1	16	福田 義康	0	0	0	0	0				
17	鬼防 壬陽人	4	0	1	2	0	* 17	谷 哲平	5	1	1	0	4				
18	井上 涼雅	2	0	0	2	0	18	越智 駿斗	0	0	0	0	1				
コーチ	吉田 裕司					0	コーチ	瀬戸山 京介					0				
Aコーチ	河合 祥樹						Aコーチ	濱頭 連太郎									
合計		96	3	34	19	17	合計		72	10	15	12	18				
主審: 岩木 太郎 副審: 畑中 直哉 副審: 増田 和彦																	



CTO	1・2P	3・4P	OT1	OT2	OT3	OT4
TeamA	:	:	:	:	:	:
TeamB	4:02	:	31:40	:	:	:

〔戦評〕  
 両チームマンツーマンでスタート。平均身長に約10センチの差があるチームの戦い。京都両洋がミスマッチをどうカバーするかが見どころの試合である。  
 京都両洋は#11のドライブインを中心に#12の3P、#17のドライブインで得点を重ねる。一方、洛南はトランジションからの得点でペースを掴み、#7#11がコンタクトプレイからペイントエリアの得点でリードを広げ、京都両洋のタイムアウト。京都両洋は5人交代し、ゾーンディフェンスでペイントの失点を警戒。しかし洛南は、#5の3Pとリバウンドで流れを譲らず1Q 26対14洛南リードで終了。  
 2Q、洛南は#5#8のドライブイン、#6のゴール下でのコンタクトプレイと徐々にリードを広げる。一方、京都両洋は#17のルーズボールから流れを生むが体格で勝る洛南のペイントエリアでの得点を防ぐことが出来ない。残り2分、京都両洋#7が1対1のディフェンスでスティールやオフェンスファウルを誘い、チームに勢いをつけ#17のアシストから#11がゴール下で得点を取り43対28で洛南15点リードで前半終了。  
 3Q、洛南は、京都両洋のドライブに対応ミス誘い速攻で得点を重ねる。京都両洋は長身の#11が入り1-2-2のゾーンディフェンスでペイントエリアの失点を防ぐ。そこから、#7#12#4と4連続3Pで反撃。メンバーチェンジをしながら、洛南のリバウンドへ対応する。しかし、洛南はハイポストを起点とした中外のボール回しから得点を重ね流れを継続する。  
 4Q、洛南がディフェンスで相手のミス誘いさらにリードを広げる。一方、京都両洋は少しずつディフェンスリバウンドの獲得率が上がり速い展開からの3Pを主体とするオフェンスに変更。#7が4本の3Pを沈め1年生ながらチームを引っ張る。#11のドライブインなど最後まで全員で体格の差を埋めるハードなプレイを継続した。決勝リーグ初戦は、96対72で洛南高校が勝利した。